

**適期収穫の徹底を！
ももは収穫後に必ず薬剤散布!!
高温対策及び風害対策を万全に!!!**

I 要 約

- ぶどうは着色だけではなく、糖度や食味を確認してから収穫する。
- ぶどうのべと病対策として、排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が溜まらないようにする。
- もものせん孔細菌病対策として、収穫後の「9月中旬（川中島白桃収穫後）」と「9月中旬散布の2週間後頃」の薬剤散布は必ず行う。
- 西洋なしのゼネラル・レクラークの熟度は平年よりやや進んでいると見込まれる。
- 今後も高温が続く予報であることから、日焼けや乾燥対策を万全にする。
- 台風の接近や強風に備え、風害対策を万全にする。

報道機関用提供資料	
担 当 課	農林水産部りんご果樹課
担 当 者	生産振興グループ GM 工藤 秀樹
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報 道 監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線 4967

II 特産果樹生産情報

1 生育概況

露地ぶどうの着色日は、キャンベル・アーリーが五戸（りんご研究所県南果樹部）で平年より7日早く、スチューベンが黒石（りんご研究所）で平年より11日早かった。キャンベル・アーリーの収穫は、南部町で8月26日頃から始まっている。

西洋なしの果実肥大は、五戸で平年を上回っており、熟度は平年よりやや進んでいると見込まれる。

○露地ぶどうの着色日

（月・日）

地域	品種	本年	平年	前年
五戸 （県南果樹部）	キャンベル・アーリー	8.12	8.19	8.6
	スチューベン	8.21	9.1	8.22
黒石 （りんご研究所）	スチューベン	8.14	8.25	8.11

注1）着色日：20%以上着色した果房が樹全体の80%以上になった日

2）平年値：2005～2024年（20年間）の平均

○もも、西洋なしの果実肥大

（もも8月20日現在、西洋なし8月30日現在、横径cm、%）

地域	樹種（品種）	本年	平年	前年	平年比
五戸 （県南果樹部）	もも（川中島白桃）	8.5	7.1	8.7	120
	西洋なし（ゼネラル・レクラーク）	8.9	7.9	8.8	113

注1）平年値：ももは2009～2024年（16年間）の平均、西洋なしは2005～2024年（20年間）の平均

2）ももの横径は縫合線を挟んだ最大径（側径）

○西洋なし（ゼネラル・レクラーク）の熟度の進み

（調査月日：8月30日）

地域	年	果重 （g）	表面色	地色	硬度 （ $^{\circ}$ N）	糖度 （%）	酸度 （%）	ヨード 反応
五戸 （県南果樹部）	本年	352	3.0	3.1	11.9	12.3	0.46	4.5
	平年	295	2.7	2.7	13.3	11.2	0.33	4.3
	前年	350	3.0	3.1	12.0	11.7	0.47	3.9

注1）平年値：2005～2024年（20年間）の平均

2）表面色及び地色：日本なし地色用カラーチャートの指数1（緑色）～6（黄色）

3）ヨード反応：ヨードでんぷん反応指数の0～5、小さい数値ほどでんぷんが少ない

2 作業の重点

（1）ぶどう

ア 結果枝の管理

着色後も新梢がかなり伸びている場合は、結果枝の葉数が25枚程度になるように随時摘心する。過繁茂防止に努め、果房や結果枝の基部まで日光が十分に当たるようにする。

イ 収 穫

キャンベル・アーリー、スチューベンは、果皮色が紫黒色となり、果粉に覆われ、品種固有の食味に達してから収穫する。

シャインマスカットは、外観だけでは収穫適期の判定が難しいので、糖度、食味を確認してから収穫する。収穫が遅れると果皮の黄変や果肉の軟化により商品性が低下したり、袋をかけても「かすり症」が発生する場合があるので注意する。

結実初期の若木では熟期が早まる傾向があるので留意する。

品種別収穫時の糖度の目安

品 種	糖 度（％）
キャンベル・アーリー	14
スチューベン	18
シャインマスカット	18

<収穫時の留意事項>

- (ア) 朝夕の果実温度の低い時間帯に収穫する。
- (イ) 降雨があった直後は、完熟果でも糖度が低下し、輸送中の腐敗も多くなるので、なるべく晴天時に収穫する。
- (ウ) 脱粒したり果粉が落ちたりしないよう、穂軸を持って丁寧に扱う。

ウ 貯 蔵

貯蔵用の果実は、収穫後速やかに冷蔵施設へ搬入する。果軸が太く、果房全体が引き締まり果粒に張りのあるものとし、穂軸は長めとする。裂果粒や腐敗粒は取り除く。

スチューベン、シャインマスカットは、普通冷蔵（温度0℃、湿度約95％）で約2か月間の貯蔵が可能である。なお、貯蔵限界の目安は穂軸、果軸の萎縮や褐変が軽く見られ始め、果房当たり1～2粒が脱粒し始めた頃である。

灰色かび病は5℃以上の多湿条件で多発しやすいので、貯蔵温度は0℃付近に保持する。貯蔵中に発病した果粒、果房は随時取り除く。

エ 病虫害防除

(ア) ベと病対策（スチューベン、シャインマスカット）

発病葉や発病果房は見つけ次第摘み取り、被害落葉は集めて、適切に処分する。排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が溜まらないようにする。

(イ) 灰色かび病対策

長期貯蔵向けのスチューベンでは「8月下旬～9月上旬」にフルーツセイバー1,500倍を特別散布する。フルーツセイバーの使用時期は収穫7日前までなので、散布時期に注意するとともに、薬剤耐性発達の懸念があるので、年1回の使用にとどめる。

(2) も も

ア 追 肥

ももは花芽が着きやすく、樹体の養分（炭水化物）の消耗が激しいので、収穫後、速やかに成木（7年生以降）で10a当たり窒素2.8kg、リン酸1.2kg、カリ2.0kgを目安として施用する。施肥量は園地の土壌条件や樹勢によって加減する。

イ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 ／10a
9月上旬	ロブラル水和剤 1,500倍 又はDMI剤	—	400ℓ
9月中旬 (川中島白桃収穫後)	ICボルドー412 30倍	—	400ℓ
9月中旬散布の2週間後頃	ICボルドー412 30倍	—	400ℓ

注1) DMI剤：インダーフロアブル5,000倍、アンビルフロアブル1,000倍、スコア顆粒水和剤2,000倍、オンリーワンフロアブル2,000倍

2 ロブラル水和剤とDMI剤は、薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれ年1回の使用にとどめる。

(イ) せん孔細菌病対策

薬剤散布と耕種的防除を組み合わせた総合的防除を徹底する。特に風を強く受ける地帯で多発するので、防風対策は必ず行う。

枝病斑は重要な伝染源になるので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

翌年の一次伝染源となる春型枝病斑を減少させるために、収穫後の「9月中旬(川中島白桃収穫後)」と「9月中旬散布の2週間後頃」の薬剤散布は必ず行う。

(ウ) 灰星病対策

発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(エ) シンクイムシ類対策

幼虫が果実から脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。被害果をそのまま放置すると次世代の発生源となるので、必ず処分する。

(オ) モモハモグリガ対策

多発園では「9月上旬」にスカウトフロアブル2,000倍も使用する。

(3) な し

ア 収 穫

(ア) 西洋なし

収穫時期が早過ぎると追熟が正常に進まず硬いままであり、遅すぎると内部褐変などが発生するため、適期に収穫する。収穫適期は気象に大きく左右されるので、満開後の日数、ヨードでんぷん反応指数、地色などの状況から総合的に判断する。

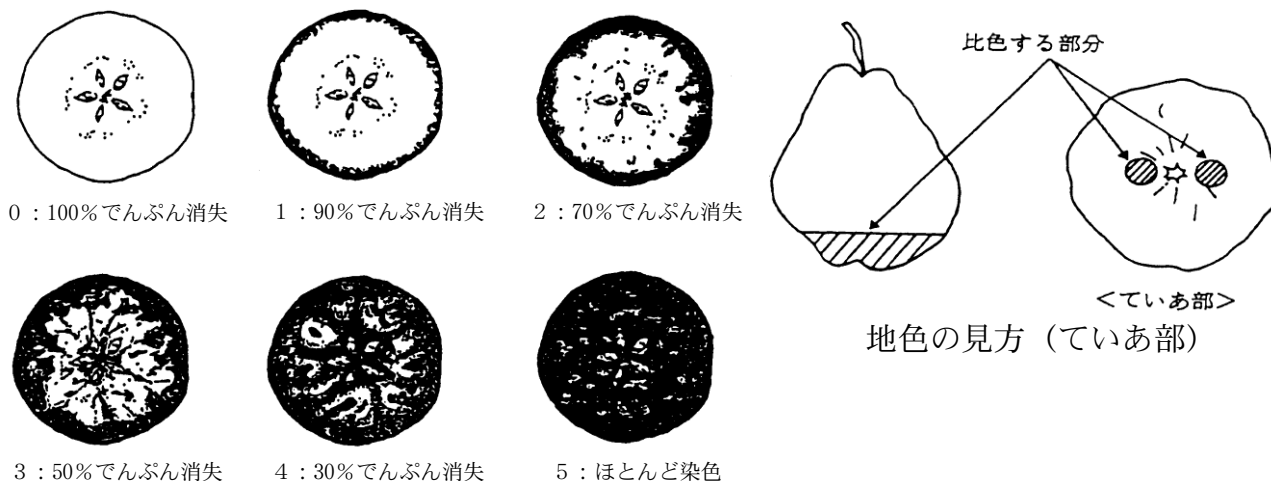
ゼネラル・レクラークでは、これらの指標に加えて表面色（日本なし地色用カラーチャートを使用して果実の胴部を比色）、糖度もあわせて判定する。収穫適期の指標は表面色指数3、糖度12.5%前後である。

中・晩生品種の収穫適期の判定指標

品種	満開日から収穫始めまでの日数	ヨードでんぷん反応指数	地色指数
ゼネラル・レクラーク	145日	3～3.5	2～3
ラ・フランス	165日	1～1.5	2～2.5

注1) ヨードでんぷん反応指数：下図参照

2) 地色指数：「日本なし地色用カラーチャート」を使用し、ていあ部（果実の尻の部分、下図参照）のコルク層を薄くはぎ、変色しないうちに比色する。



ヨードでんぷん反応指数（でんぷんの消失割合）

(イ) 日本なし

収穫適期は糖度や果皮の地色からも判定できるが、食味で判定するのが最も簡便かつ正確である。「日本なし地色用カラーチャート」を使用する場合は、ていあ部の地色が多摩で4、幸水で3～4の時に収穫する。ジベレリンペーストを使用した場合、成熟期は5～7日くらい早まる。

イ 追 熟

追熟の適温はゼネラル・レクラークでは15～20℃、ラ・フランスは10～15℃である。追熟の揃いを安定させるため、収穫後、速やかに冷蔵施設へ搬入し、予冷する。予冷温度と日数はゼネラル・レクラークが0～5℃で15日、ラ・フランスが2～5℃で7～10日とする。

追熟完了の目安は果実を軽く指で押してみて、押し跡がつく頃である。また、ゼネラル・レクラークのように果皮が黄変する品種では、果皮の黄化や地色の抜けも参考にする。

ウ 長期貯蔵

貯蔵用の果実は適期に収穫したものを用い、収穫後は、速やかに冷蔵施設へ搬入する。

ゼネラル・レクラークは温度3℃、湿度約90%で約2か月間、ラ・フランスは温度0℃、湿度90～95%で約4か月間の貯蔵が可能である。

なお、長期間冷蔵貯蔵した果実の追熟は15℃以下の低めの温度で行う。

エ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布（西洋なし）

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 ／10 a
9月中旬	オキシラン水和剤 500倍 又はトップジンM水和剤 1,500倍	—	450ℓ

(イ) 輪紋病対策

樹勢が衰えると枝幹が被害を受けやすくなるので、樹勢を適正に保つ。発病枝は伝染源となるので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

ゼネラル・レクラークやラ・フランスなどの中・晩生品種では「9月中旬」も重要な防除時期になるので、必ず薬剤散布を行う。

(ウ) 黒斑病対策（ゼネラル・レクラーク）

徒長枝は発生源となりやすいので、不要なものは夏のうちに切り取る。

発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

発生が見られる園地では、「9月中旬」にオキシラン水和剤を選択する。

(エ) シンクイムシ類対策

幼虫が果実から脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。被害果をそのまま放置すると次世代の発生源となるので、必ず処分する。

(オ) カメムシ類対策

発生が見られた場合は、スカウトフロアブル1,500倍を特別散布する。

(4) 核果類共通（おうとう、もも、うめ、あんず、すもも、ネクタリン）

ア コスカシバ対策

生育期に枝幹部や地際部に樹脂（ヤニ）又は虫糞の発生が見られる場合は、削り取って幼虫を捕殺あるいは刺殺する。もしくは、虫糞を取り除き、ロビンフッドのノズルを孔に差し込み、薬液を噴射する。

(5) 共通

ア 高温・乾燥対策

ハウスぶどうは、換気などによる温度管理を徹底する。

日焼けの発生防止に向け、高温時の徒長枝整理、支柱入れ、枝つりなどは控える。

苗木や若木は乾燥の影響を受け易いので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

イ 風害対策

台風等に備え、棚、支柱、防風網等を再度点検し、必要に応じて補強や補修等をする。また、幹や主枝などに空洞などが生じている樹は支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

気象情報に十分注意し、収穫適期に達した果実は、速やかに収穫する。

果実を加工用に仕向ける場合は、農薬使用基準上の問題がないことを確認する。

ウ 施肥（基肥）

ぶどう、おうとう、もも、うめ、あんずの基肥は下表を目安に施用する。

施肥量は園地の土壌条件や樹勢によって加減する。

基肥の施用時期と施肥割合

樹種	施用時期	標準施肥量 (kg/10a、成木)			施肥割合 (標準施肥量に対して)
		窒素	リン酸	カリ	
ぶどう	10月上～中旬	15	10	10	60～80%
おうとう	10月中旬	15	6	12	80%
もも うめ あんず	10月上旬	14	6	10	80%

エ 園地の清掃

病害虫は被害落葉や落下果実で越冬し、翌年の発生に影響するものが多い。また、園地が汚れていると野ネズミの被害を受けやすいので、落葉の収集や果実を除去するなど園地をきれいに片づける。

特におうとうの灰星病のミイラ果は見つけ次第摘み取り、適切に処分して菌密度の低下を図る。

《 りんご研究所参観デーのお知らせ 》

五戸会場（りんご研究所県南果樹部）：9月12日（金） 9:00～15:00
黒石会場（りんご研究所）：9月18日（木） 9:00～15:00
※研究成果について講演会やポスターによる展示などがあります。

※詳しくは、りんご研究所「イベント情報」
(<https://www.aomori-itc.or.jp/docs/2024070400025/>)



《 青森りんご植栽150周年記念イベントのお知らせ 》

令和7年(2025年)は、青森県にりんごが植えられてから150年の記念すべき節目の年「青森りんご植栽150周年」です。青森県全体で青森りんごを盛り上げていくため、9月13日(土)に弘前市民会館大ホールで青森りんご150周年記念イベントを開催します。



大ホールで行うイベントの応募は終了しましたが、同会館の大・小会議室ではりんごの歴史パネル展、ラジオの生放送、あっぷるばい（牌）の無料体験も行われ、こちらは参加自由となっております。

また、13日（土）14日（日）に追手門広場では、りんごに関連するグルメ・クラフトイベントを開催します。多数の参加をお待ちしております。

《 ツキノワグマ出没警報発令中！（5月1日～11月30日） 》

- ・1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。
- ・野菜・果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。
- ・農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。
- ・詳細は県ホームページをご確認ください。

(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuui.html)

《 秋の農作業安全運動展開中！（9月～10月） 》

いつもの作業に、いつも以上の注意を。

脚立作業は、安定した場所にしっかり固定し、天板上での作業は行わず、脚立から身を乗り出さないようにしましょう。

機械作業は、ほ場の出入り口などの段差や傾斜による転倒に注意するとともに、安全ベルト着用など、転落対策を徹底しましょう。

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！

次回の「特産果樹生産情報」第7号は9月30日（火）発表の予定です。